

令和6年度 こども園における自己評価結果報告

こども園における自己評価の結果がまとまりましたので、ご報告いたします。  
自己評価の結果を踏まえ、今後の教育・保育の質の向上並びにこども園運営の資質向上に努めて参ります。

A：たいへんよい  
B：よい  
C：一部検討を要する  
D：改善を要する

項目	内容	評価				取り組み状況及び課題
		A	B	C	D	
教育・保育理念	(1) 理念や基本方針が職員に周知されているか		○			<p>・今年度からこども園になったということで、園だよりや情報誌で「三つのゼン」について詳しく伝えるようにした。アンケートの結果より理念や基本方針についても9割の方にある程度伝わっていることが分かった。職員間でも理念や教育方針の共有の場を設けたが内容の理解については個人差があった。今後も利用者や職員全体に理念等が周知出来るよう、職員については確認しあう機会を持つと共に、利用者に向けては分かりやすく伝え周知を目指したい。</p> <p>・子どもの人格尊重や不適切保育の防止等において「人権擁護のチェックリスト」を利用し、子どもの人権や普段の保育について振り返り、話し合う機会を持った。それによる気づきや学びが現場で生かされるよう、職員間で確認し合いながら子どもへの関りを丁寧に行っていくようにする。</p>
	(2) 理念や基本方針が利用者に周知されているか		○			
	(3) 理念や基本方針に基づいた教育保育が行なわれているか		○			
	(4) 一人一人の子どもの人格を尊重した教育保育について共通の理解をもっているか		○			
教育保育の計画	(1) 社会状況や子どもの実態、地域性を考慮し、必要に応じて教育保育課程の見直しを行っているか		○			<p>・民営化1年目ということで、子どもたちが不安なく移行期間を過ごせることを大切にしたい。その中で、職員自身が地域性を知り、これまでの湯野こども園の特色を大切にしよう心掛けた。行事の内容や実施の仕方についても、年齢に応じて内容や実施の仕方を工夫して行った。来年度も職員の話し合いの場を大切にする事で子ども理解を深め、子どもたちの成長を見据えた指導計画を作成し、日々の活動や行事の取り組みを行っていききたい。</p> <p>・調理員と保育者が連携して、行事や伝統文化と食をつなげ、豊かな心が育まれるようにしている。</p>
	(2) 指導計画は、乳幼児の心身の発達を踏まえ、入園から修了までの長期的な視野を持って充実した生活が展開できるように配慮し作成されているか		○			
	(3) 子どもの生活が豊かになるように行事を精選し、子どもの発達を踏まえて、その内容や実施の仕方について見直しを行っているか		○			
子どもの発達援助	(1) 子ども一人一人の健康状態や発育・発達の状態を把握し、職員間にて共有されているか	○				<p>・クラスの職員間ではコミュニケーションをとり、子どもの姿を共有することが出来た。園全体で子どもの姿を周知出来るよう、園内研修を通して共有の時間を設けるようにしたが、まだ周知が不十分であると感じる。今後も、園全体で子どもたちを見守れるよう、園内研修や職員会などで共通理解を深め、子どもの発達を援助していきたい。</p> <p>・食を育む力が育つように、子ども自ら食にかかわる体験を積み重ねている。これらの体験により、食べることの楽しさや食に関する興味関心が育まれている。また、乳児クラスは子どもの食べる様子を栄養士と共有しながら食事段階を進めるようにしている。</p> <p>・今年度は4.5歳児が異年齢保育を行う中で、それぞれの年齢が押さえたい育ちや異年齢でしかできない経験が出来るよう職員間で話し合いを大切にしている。また、子どもの興味に合わせて主体的に活動が出来るように工夫している。子どもたちの遊びがさらに発展していけるよう保育者が丁寧に子どもたちの心情を読み取り、観察し、環境を工夫していけるようにしたい。</p>
	(2) 子どもが安定感をもって過ごし、自分の気持ちを安心して表すことができるよう留意しているか		○			
	(3) 子どもに相応しい食生活が展開されるように、食事について見直しや改善を行っているか		○			
	(4) 子どもが食事を楽しむことができる工夫をしているか	○				
	(5) 子どもが主体的に活動できるような、人的・物的環境が整備されているか		○			
	(6) 子ども一人一人を受容し、理解を深めて働きかけや援助が行われているか		○			
	(7) 健康安全や発達の確保を十分に図り、日々の環境を整えているか		○			
	(8) 子どもが自ら周囲の様々な環境と関わり、発達に必要な体験を積み重ねていけるよう努めているか		○			
	(9) 子ども自身が自分を肯定する気持ちを育んでいけるよう、継続的な信頼関係が築かれているか		○			

項目	内容	評価				取り組み状況及び課題
		A	B	C	D	
	(10) 保護者の生活形態を反映した子どもの在園時間の長短、入園時期や登園日数の違いを踏まえ、子ども一人一人の状況に応じた工夫が行われているか		○			<p>・配慮が必要とされる子に対し、職員間で共有し全職員で関わっていけるよう心掛けた。今後も安心して過ごせるよう職員間の共通理解を努めるとともに、情報ステーション含め専門機関と連携を図り、個々に合った支援方法をしっかりと学んでいきたい。</p> <p>・湯野小学校との連携において、今年度は学校の先生方に園での子どもの様子を三度見に来ていただき、情報共有を行った。また、交流会を通して小学校への期待が持てるようにしている。保護者とは、就学に向けて気になることがあればいつでも話し合う機会を持つと共に個人懇談も行い、就学前の不安解消や子ども理解に努めている。</p>
	(11) 障がいのある子どもが安心して生活できる保育環境が整備され、教育保育の内容や方法に配慮されているか		○			
	(12) 小学校との連携や就学を見通した計画に基づいて、教育保育の内容や方法、保護者とのかわりに配慮されているか		○			
保護者に対する支援	(1) 子どもの発達や教育保育などについて、懇談会などの話し合いの場に加えて、保護者と共通の理解を得るための機会を設けているか		○			<p>・今年度は保育参加、クラス懇談（全クラス）、個人懇談（以上児）を開催することができ、特にクラス懇談会での反響は大きく、保護者同士の話し合いが喜ばれた。子育ての悩みを打ち明けられる場所や仲間との出会いの機会となるため、今後も園が体制づくりを行っていくことが大切である。</p> <p>・園開放「どんぐり」が開催され、地域の子育て家庭の方たちが気軽に訪れ、相談や交流・情報を得ることが出来る身近な施設として役割を果たしている。</p>
	(2) 虐待に対応できる園内の体制（医療機関、児童相談所など専門機関との連携）の下、不適切な療育や虐待を受けていると疑われる子どもの早期発見及び予防に努めているか		○			
	(3) 地域の子育ての拠点として「こども園の開放」「相談・援助」「交流の場の提供」「情報の提供」の支援を行うよう努めているか		○			
教育保育を支える組織的基盤	(1) 感染症やその他の疾病の発生予防に努め、看護師の専門性を活かした対応を図っているか	○				<p>・マニュアルを通し、全職員が疾患や衛生に対し共通理解が出来るよう心掛けた。また、感染症が流行った際は看護師が感染予防対策を全職員に周知している。しかし、まだ理解には個人差がある。今後は、玩具や保育室の消毒等細かなこともしっかりと共通理解していけるようにする。</p> <p>・毎月避難訓練や安全点検を行っている。避難訓練では、その都度出た反省を職員間で話し合っている。来年度は新園舎に引っ越しを行うので、新しい環境下でも子どもも職員も安全に避難できるよう、今後も話し合いを重ねていく。</p> <p>・外部から講師の先生を招いて勉強会をしたり、園内研修や職員会で質の高い保育が実践できるよう、話し合いを重ねている。</p> <p>・事業計画については、大和善隣館のホームページに掲載されているが、すべての利用者に周知されていない。計画作成のみにとどまらず職員会等で話題に上げ、全職員が十分理解し取り組む必要を感じた。</p> <p>・苦情解決の仕組みについては、保護者には十分伝わらなかった。次年度は園だより、ホームページで第三者委員や苦情解決の窓口等をお知らせし、周知を図っていく。</p> <p>・全職員が自己評価を行い、自ら保育を振り返り、取り組むべき課題を明確にし改善を行っている。</p>
	(2) 体調不良、アレルギー疾患等をもつ子どもに対し、適切な対応が行われているか	○				
	(3) 避難訓練・安全点検・不審者侵入防止訓練等、子どもの安全確保のための適切な対応が行われているか		○			
	(4) 地震などの自然災害に対する防災対策は行われているか		○			
	(5) 施設長がリーダーシップを発揮し、職員が教育保育の内容の充実と質の向上を図れるよう努めているか		○			
	(6) 研修等、教育保育の質の向上を図るべく、自己研鑽への取り組みを積極的に行っているか		○			
	(7) 事業計画が職員に周知されているか		○			
	(8) 事業計画が利用者に周知されているか		○			
	(9) 守秘義務の遵守が全職員に周知され、守られているか		○			
	(10) 個人情報適切に取り扱いつともに、保護者の苦情に対し、早期解決を図るよう努めているか	○				
	(11) 苦情解決の仕組みが確立され、保護者等に十分に周知・機能しているか		○			
	(12) 保護者が相談や意見を述べやすい環境を整備しているか		○			
	(13) 保育教諭等が主体的に自己評価に取り組み、教育保育の改善が図られているか		○			
	(14) 個人の評価結果に基づき、組織として取り組むべき課題を明確にし、改善策・改善実施計画を立て実施しているか		○			

民営化1年目ということで、たくさんの課題がある中で一つ一つの課題に対して丁寧に関わっている様子が伺えました。施設内の構造的な課題は、新園舎が完成することでほとんど解消されるはずですが、一方で人的環境は新園舎になったからと言って急に変わるわけではありません。公立からの民営化への移行期間では、もともといた環境の異なる職員が集まってひとつの組織を形成することになります。組織としてうまく機能していくには、職員一人一人が組織としての目標を共通理解することから始まると思います。1年目は目の前のことに対応していただくであつという間に過ぎてきたと思いますが、2年目も組織を構成する職員が変わり3年目に完全な民営化になることを考えて、湯野こども園としての組織づくりを進めていただきたいと思います。

保護者も民営化によって生じた戸惑いや期待が入り混じっていることと思います。保護者の思いを受け止めることはもちろん大切ですが、新しく生まれた湯野こども園としての教育・保育の考え方をぶれずに丁寧に伝えていってほしいと思います。

令和 7年 3月14日

役職等 監 事

氏 名 森 和 美



## 湯野こども園の評価結果に対する意見・コメント

民営化一年目という事で、大変気苦労されたことであろうと思います。本当に日々お疲れ様です。保護者の方は、公立時代と比べてどうなのかなということもあると思いますが、丁寧に対応されていると感じました。できないことはできないのですからきちんと伝えることも大切です。移行期は保護者との信頼関係がとても重要ですので今後も信頼関係の構築に力を注いでいただければと思います。

アンケート結果においては、ほぼ保護者の方が満足という結果になっていますのでスムーズな移行期間を過ごせたのだと感じました。職員の皆様の頑張りですね。

今後も園内研修等で、職員全体で何事も共通理解し湯野こども園らしい教育・保育を目指して下さい。

令和 7 年 3 月 20 日

役職等 監 事

氏名 嘉藤 恵子



- ① えんたより、地域の情報誌には、理念、方針が書かれており、三つのセブンの説明もあり、わかりやすくまとめられています。
- ② 意見要望に対する回答は、とても丁寧、わかりやすく書かれています。
- ③ 絵本「おぼけの天ぷら」からエフおもの天ぷら、焼きいもにみたてた焼きいもハン、トナカイのマフィン、お年玉クッキー、ゆのベカリー、運動会メダルおにぎり、名前がわくわくします。食べるのが楽しいと思える工夫がされており、楽しい食事風景だろうと想像できます。
- ④ ほけんたよりは、伝えたいことが短く的確に書かれており、イラストで内容が理解できます。とてもみやすく感心しました。

令和 7 年 3 月 17 日

役職等 監事

氏名 堅田 光志

